

(1) 会合の概要

- 日程・場所 : 2022年6月28日(火)～7月8日(金) ハイブリッド形式(ジュネーブ、Zoom併用)
- 検討事項 : ワイヤレス電力伝送(WPT)、テラヘルツデバイス、電波監視業務に関する勧告/報告書等について審議。
- 参加者 : 米、加、英、蘭、露、中、韓等から約396名が参加。日本から総務省、民間企業等計26名が参加。

(2) 主な結果

(1) ワイヤレス電力伝送(WPT)に関する検討

- Beam(空間伝送型) WPTの影響調査に関するITU-R報告草案(SM.[WPT.BEAM.IMPACTS])について、前回会合までに、既存の無線システムへの影響等に関する検討を行っていた。今回会合においては、本年5月に日本国内でBeam WPTが免許局として制度化されたことを踏まえ、日本からこの情報を本報告案に追記するための寄書を入力した。本報告案は日本提案を適切に反映した形で、WP1A会合において報告案に格上げされた後、SG1会合において承認された。
- また、Beam WPTで使用する周波数に関するITU-R新勧告草案(SM.[WPT.BEAM.FRQ])について、本年5月に日本国内で制度化された周波数が適切に記載された形でWP1A会合において勧告案に格上げされた後、SG1会合においてPSAA手続きを適用することが合意された。

(2) テラヘルツ帯の能動業務に関する検討

- ITU-R報告SM.2352(275-3000GHzにおける能動業務の技術動向)の改定草案(※1)について、日本から用語の変更等エディトリアルな修正提案を行うとともに、改定草案から改定案への格上げ提案を行った。WP1A会合において、当該修正提案が反映された形で、改定草案から改定案に格上げされた後、SG1会合において承認された。
- また、SM.2352はWP5A、5B、5C及び5Dの所掌範囲となる可能性のある能動業務に関する内容を含むことから、SM.2352の改定作業が完了したことをこれらのWPへ通知するリエゾン文書が発出された。
※1 日本からの提案により、ウォークスルースキャンニングシステム(衣服の下に隠れた金属・非金属の危険物を短時間で検知するシステム)の仕様を追加する検討が令和元年5月のWP1A会合からなされている。

(3) オリンピック・パラリンピック競技大会における周波数管理と電波監視業務に関する報告

- 我が国提出の東京2020オリンピック・パラリンピック大会における周波数管理及び電波監視の概要に関する寄書について、WP1Cにおいて議論がなされ、大規模イベントにおける電波監視に関するITU-R報告(SM.2257-5)の新たなアネックスとして追加することとなり、報告改訂案がSG1会合において承認された。

(3) 今後のスケジュール

WP1A/1B/1C会合 : 2023年5月29日～6月2日 : テッサロニキ(ギリシア)

SG1会合 : 2023年6月5日・6日 : ジュネーブ(ITU本部) ※いずれもハイブリッド方式